

かさおか

発行所

天理教笠岡大教会

かさおか編集掛

笠岡市用之江377

郵便番号714-0066

(0865)

電話 66-1311

FAX 66-1314



久福分教会

昭和10年10月27日 設立
昭和16年12月7日 鎮座奉告祭
昭和20年8月8日 戦火で全焼
昭和27年2月26日 神殿建築
昭和27年5月8日 落成奉告祭

教祖百四十年祭 笠岡大教会活動方針

つながろう、おやさまのお心に。
つなげよう、信仰の喜びを。

活動
目標

ひながたを学び、そのお心を実践しよう。

実践
項目

毎日、喜び・感謝を声に出そう



立教188年
8月号

能登半島地震復興支援
チームの活動に参加し



昨年元日に発生した能登半島沖地震から1年8ヶ月が経過しようとしています。新しい年を迎えた喜びを味わう中、突如として状況が一変しました。

発災後から、被災地で厳しい生活を余儀なくするきょうだいの為に何かできないか？との思いが募る中、たとえバケツ1杯でも瓦礫を運べば、それだけ復興が進むんだ。との思いで始まった「能登半島地震復興支援チーム」の活動は10数回を数えます。その間、小



石を積み上げていくようにメンバーも増え、手弁当、経費自己負担で続けてきた活動も、現在は多くの方の支援を頂きながら継続させていただいてます。被災地を思う真実に頭が下がります。この場をお借りして御礼申し上げます。誠に有難うございます。

さて、今回7月22日から23日にかけて、能登の地に行かせて頂きました。出発早々高速道路上で、マイクロバスのタイヤがバーストするというアクシデントに見舞われましたが、全てにおいて丁度いいタイミングで（詳しく説明すると紙面が足りなくなるので割愛します）お連れ通り頂き、まさに大難



を無難の御守護に、皆勇んで活動させていただきました。

今回の被災現場は、大谷地区という場所で、大規模な山崩れのあった場所で、1人の少女が巻き込まれて亡くなったと、ニュースでも大きく取り上げられた場所です。しかし、最近までボランティアの情報が皆無だったため、1年半を過ぎても、土砂に飲み込まれた大きな家屋がそのまま残っており、まったくの手つかず状態でした。

そうした地区で今回は、倒壊した墓石の復旧作業をお手伝いさせてもらいました。同じく復興支援に携わってられる教友の指示の元、^{1.5}1. m下に落ちた

200 kgを越える墓石を、チェーンブロックや滑車を駆使して引き上げる作業は大変勉強になり、今後の復旧活動にも活かせる経験となりました。何よりも当家の方が本当に喜んでくださる姿を通して、「人をたすけなされや」と仰られる教祖のお手伝いをさせていたかったです。毎回感じます。

復興まではまだまだ長い道程の中ですが、今も各地で豪雨災害が発生しています。できる事は一人一人違いますが、間違ひなく全員ができることは、教会で、また家庭で災害の治まり、一日も早い復興を、おつとめで願うことだと思います。そして、いざ災害が起こったら自分にできることで、兄弟姉妹扶け合いを実践していきたいものです。

(参加者 田中隆之)

こどもおちばがえりに

500
人
歸
參

今年も本部でこどもおちばがえりが開催されました！

近年は暑さの為、行事の室内化、また暑さ対策として様々な工夫がなされています。

そんな中、笠岡大教会といたしましたし、約500人の方々がこの期間に、おちばに帰られました。

暑い中での声かけ、引率、なにかと大変だったと思います。

ご苦労様でした♪

かき氷も、大教会長様が直々にお出ましくださり、毎夜開催できました。

また、詰所内でのスタンプ・クイズ・謎解きラリーも帰参された子どもたちを楽しませてくれました。

ありがとうございました！

(少年会団長 森本 忠 善)

こどもおちばがえり 鼓笛行事に参加

むつみ
鼓笛隊

笠岡むつみ鼓笛隊(責任者 上原繁次)は、7月27・28日の日程でおちばにかえり、鼓笛行事に参加した。

27日夕勤め前には、真東棟前から東礼拝場前に向けてパレードをし、その後お供演奏が行われた。この日集まった700人を超える各地の鼓笛隊員らと共に、テーマソング『ありがとう夏のおちば』を、一手一つに演奏・演技した。また翌日には、鼓笛オンパレードに出

演し、1年間の練習の成果を発揮した。



英語講習会開催

海外部

海外部は、8月7日に英語講習会を開催しました。

今年は今までの講習会と一味違った内容で、アフリカのケニア共和国から

現地のテマリ中学校修学旅行生とスタッフの計23人のケニア人を特別ゲストとして開催しました。

このケニアテマリ中学校はもとと1980年代に起こったアフリカの干ばつ支援に教会本部の「飢えた子にミルクを」キャンペーンから始まったNPO法人「アフリカ児童教育基金の会ACEF」の経営する学校で、生徒達は7月29日に来日、8月3日までこどもおちばがえりに帰参し、3日から7日朝まで米府分教会に滞在後、笠岡大教会の英語講習会に参加しました。

講習会では参加者とケニア人中学生が混じり班に分かれ、ウォークラリー形式の多彩なゲーム(箸を使った豆つかみ・英語じゃんけん・漢数字や英単語並べ・折り紙やクレープ作り等を通して英語を使い学びました。

そしてゲームの内容で英会話を進めるだけでなく、班のメンバー同士で会話ができるよう日本の参加者やケニアの生徒が自然にコミュニ

ケーションを取る姿がありました。ケニアの生徒達は参加者が頑張って英語を話そうとする姿を見て、すごく嬉しかったと感想を伝えてくれました。

今回の英語講習会の参加者は日本人53人、ケニア人23人、ひのきしん12人と、多くの方々に参加していただき、無事に講習会を終えさせていただきました。

この講習会をきっかけに、海外に興味を持つ人が増え、英語の知識だけでなく、視野が広がり、より良い人生を歩む上での大切な事に気づききっかけになれば、また来年は新しい参加者が増えて下さると嬉しいです。

(部員 三代 幸徳)



グループ毎の英語自己紹介

スタッフ・参加者の声

海外部長 上原 志郎

今年の英語講習会は参加した人達がケニアからの学生との交流深めるといふ笠岡大教会の歴史に残る講習会になりました。

参加した人達がケニアからの学生と慣れない英会話やゲームなど戸惑った事もあったと思います。その中で話せた嬉しさや通じた喜びを自信に変えてこれからの人生の幅を広げて欲しいと思います。

開催にあたり、準備を含め多くの尽力とひのきしんのお力添えあって完遂



ケニアからの友人との再会と紹介を喜ぶ

出来ました事を心から感謝いたします。有難うございました。

明石市 杉原 賢一

小学校5年生の息子と、約15年ぶりにスタッフとして参加させていただきました。今回はケニアから中学生が20人程度参加されるということで、スタッフも含めると本当に大人数での実施となりました。

私は当日の司会進行を中心にさせていただいたのですが、グループ活動の際の説明を日本語と英語両方で行う必要がありました。「果たして、うまく伝わるだろうか。伝わっているだろう



アルファベットカード集め

か。」と内心不安に感じながらの進行でしたが、参加者やスタッフの皆さんの協力もあり、何とか無事にやり遂げることができました。

少し人見知りのある息子も、はじめは恥ずかしそうにしていたましたが、時間が経つにつれ同世代の子と打ち解けたようで、楽しそうに活動できていました。

終盤にはケニアの子どもたちがダンスを披露してくれる場面もあり、異文化に触れる良い機会となりました。日帰りキャンプという、短い時間ではありましたが、世代や国籍を超えて交流を深めることができ、とても貴重な時



アルファベットで英単語作り

間を過ごすことができました。本当にありがとうございました。

陶山 上原 悠喜(高2)

私は、英語講習会でケニアの人たちとの交流という素晴らしい体験をさせていただきました。違う国の人たちとの交流は、言葉が分からず上手く伝わらないことも多かったですが、ゲーム活動や昼ご飯、ダンスなどを通して、楽しいやおいしい、面白いなどといった感情を共有でき、心が繋がれた喜びを知ることができました。

また、会話のときには、私の英語力不足で相手に伝えたくても伝えられない



ゲームの後の美味しいバイキング昼食

いことが多かったので、外国人とよりたくさんコミュニケーションをとれるようになるために、もっと英語を勉強しようと思いました。

最後に、私は英語講習会がとても楽しかったです。本当にありがとうございました。

▼英語講習会に参加して

直轄 池田 優衣(高2)

私は、今年の英語講習会のお話を聞いた時「行きます！」と即答しました。去年参加できなかった分、今年は英語を喋ってみたかったからです。しかし講習会前は、言語の壁を大きく感じ、彼らとの交流には期待より緊張が勝っていました。

ケニアの子たちはとても元気で明るかったです。

班活動をする中で、彼らから何度も質問されました。あと何分？から、家族構成や日本文化についてまで。でも、上手く聞き取れなくて何度も聞き返したり、わからないままとりあえず相槌を打ったりした場面もありました。それでも、伝えたいという思いと、それを理解したいという思いのベクトルが一致して、そういうことか！となる瞬間

間は心が通うことへの喜びを体感することが出来ました。

直轄 池田 直志(中2)

今回の英語講習会は、ケニアの子どもたちと日本の子どもたち20人が参加し、言語の違いや国境を越えた交流の場となりました。

ケニアの中学生と日本の小中高生の混合チームで、チーム対抗ウォークラリーをしました。英語で説明しながら折り鶴やクレープを作ったり、箸で豆移しをしたり、英語クイズを解いたり、叩いてかぶってジャンケンポンをしたり、教会のお姉様方の和太鼓演奏やケニアの子たちのダンスを見たりなど、とても楽しい時間でした。

お世話をして下さったスタッフの方々、貴重な体験をありがとうございました。

▼英語講習会に参加して

ペンネーム さつちゃん(小5)

今回、英語講習会に参加し、とても楽しく充実した時間を過ごすことができました。私は週1回英会話教室に通いはじめたばかりで



国境を越えて親睦を深めた講習会

📌 詰所からのお願い

詰所での宿泊・喫食について

- ・ 詰所で宿泊・喫食される場合は、「教会名・代表者名・泊数・食数」を、**2日前までには、必ず詰所**へご連絡ください。
- ・ **食事をしない(宿泊のみの)場合**でも、2日前には申し込みをして下さるようお願い致します。

す。英語はまだあまりよく話せないの
で実際に海外の方と交流するのは少し
緊張しました。

ゲームでは、箸で豆を取って別のお
皿に移す遊びが楽しかったです。簡単
なゲームですが、盛り上がりました。
会話の時間には、朝食に何を食べた
かを話し合いました。模擬店は「そう
めん」が美味しかったです。

初めは「海外の人と友達になれるか
な」と心配でしたが、実際に話してみ
るとすぐに打ち解けることができ、友
達になることができました。嬉しかっ
たです。

来年もぜひ参加したいです。

末の弟のまなざし

▼佐助さん似でナカナカの遊び上手

4代会長の事について誌してみた
い。天理外国語時代、笠岡詰所の会長
宅から通っていた。昭和17年、下駄を
つかけて詰所をでようとして下駄の
鼻緒が切れた。帰ってすぐかえていた
ら、大教会から電話があった。「初代
さんがなくなりました」という事

だった。すぐかえりましようかと問
うと帰ってこなくてよろしい。という
ことだった。もう通雄兄は亡くなっ
ているので、郁雄兄は当然帰るべきと
思っていたらしいが。昭和20年8月6
日、第二総軍司令部(広島市大須賀町)
で原子爆弾の投下に遭い被爆(A級)。
その後終戦と共に、陸軍歩兵少尉に任
官。同時に現役を解かれる。

ここまでの略歴を記す。

昭和15年 広島県立誠之館中学卒業
後、天理外国語学校本科英語部入学
昭和16年 講道館柔道初段に列せられ
る

昭和17年 講道館柔道2段に列せられ
る。此の年天理大学卒業

昭和18年 台湾総督府外事部調査課に
勤務。11月まで勤め、このとき南洋年
鑑の編纂に従事する。

昭和19年 24歳で、台湾軍歩兵第3部
隊速射砲中隊へ現役入隊

また此の年、陸軍幹部候補生第12期合
格上等兵に進み、兵長となる、また甲
種幹部候補生合格、このとき台湾高雄
南方潮州海岸に速射砲部隊の陣地構築
のため移駐。伍長勤務となり、同時に
熊本陸軍教育隊へ入隊。

昭和20年 同隊終了、同時に士官勤務

見習い士官。また此の年第2総軍司令
部付きとなる。また大本営情報将校教
育を6月末まで東京で受ける。その後
第2総軍司令部へ帰還、このとき航空
情報部勤務となる。

昭和18年19年と台湾、特に台北に居
たことから、ダンスに興味を覚え、特
にタンゴが得意であった。昭和45年、
建築会社・大本組の接待に、「繁道、一

緒に来い。お前の友だちがいるらし
い。」という事で、私とこの前亡くな
られた葦陽の会長さんとお供した。私
と葦陽とはカウンターで、皆ボックス
で話されていたが、暫くして「ウーさ
ん、踊りましょう」という声で、郁雄
会長と誘った女性がペアで踊り始めた
が、見事なものだった。

麻雀も台湾時代に覚えたのか、生涯
好きだった。いろんなエピソードがあ
るが、やめておく。柔道は昭和37年に
4段に列せられている。原爆の後遺症
には、生涯悩ませられて、本部の神殿
奉仕が辛かったようである。

昭和20年8月17日、岸本が松戸の航
空隊から音信不通の郁雄兄を尋ねて
行った時のエピソード。広島駅に下り
立った時、一体どこへ尋ねて行けばよ
いのか途方にくれたが、駅裏に総軍司

令部を探し当て、機密書類を処分して
いる郁雄兄に会った。眼鏡の一方の玉
は割れ、ツルの替わりにひもがしてあ
り、軍刀のさや代わりに応急処理した
木片の白さが目に飛び込んできた。

昭和26年、12月大教会創立60周年記
念祭並びに4代会長就任奉告祭を勤め
た。

私が天理大学英米学科に通っていた
頃、不意に部屋に入って来た事があっ
た。「大教会史書いてくれよ。お前し
かおらのじゃ。大教会だけ書くので
なしに、部内教会史も、とにかく上原
家の布教がどうなってきたのか、笠岡
分教会史は史料だとワシは思う。頼む
よ」えらいこと頼まれたなと思った。
本当は自分で書きたかったのだと思
う。被爆して精神的にも体力的にも、
無理と思ったのだと思う。

平成6年11月、何とか昭和46年まで
を第1巻として上梓できたが、翌年1
月30日出直しだった。読んでくれたの
かどうか。私は今も、この教会の信仰
の初め、そしてどこへ向かっていくの
か、思いを馳せている。郁雄兄の思い
は、私が此の世に有る限り持ち続けて
いたい。

七月月次祭祭文

この笠岡大教会の神床にお鎮まり下さいます
親神天理王命の御前に会長上原明勇慎んで申し上げます
親神様には「月日にハセカイどううハみなわが子カハいいっぱいこれが
一ちよ」との親心から一人一人に心の自由をお与え下さると共に 天然自然
のお働きを頂いて 結構に恙なくお連れ通り頂いております事は誠に有難く
勿体ない極みでございます 私共は日々朝夕に御礼申し上げますと共に たす
け一条の御用の上に努め励ませて頂いております
その中にも今日の吉日はこの名称にお許し下さいました御祭日ござい
ますので 只今からおつとめ奉仕人一同 たすけ心も一人に明るく陽気に勇ん
で坐りづとめてをどりをつとめて七月の月次祭を執り行わせて頂きます 御
前には折からの暑さも厭わず今日の日のを楽しみに寄り集いました道の子供た
ちが 相共にお歌を唱和し 日頃の御高恩に改めて御礼申し上げる状をご覧下
さいまして 親神様にもお勇み下さいますようお願い申し上げます
さて今年もこどもおちばがえりが近づいて参りました おちばを子どもた
ちの元気な声で一杯にして親神様教祖にお喜び頂きたいと 募集の上に一先
懸命つとめさせて頂いております 子どもたちの笑顔溢れ期間中は無事無難
にお連れ通り下さいますようお願い申し上げます
また八月にはケニアからの子どもたちを迎えて英語講習会とさんさいの里
での少年会キャンプを開催致します 同じ時間を共に過ごす中で 少しでも
信仰の喜びが伝わるように努め励ませて頂く所存でございます
何卒親神様には 親孝心一筋にたすけ一条に邁進する皆の誠真実の心をお
受取り下さいまして 万たすけの上に尚も自由の御守護を賜り お望み下さる
陽気ぐらしの世の状に一日も早く立て替わりますようお願いの程を一同と
共に慎んでお願い申し上げます

立教百八十八年 七月月次祭 祭典役割表

講話		扨者		祭主
浅野明教		森本忠善	上原浩	大教会長様

九月講話		指図方		賛者
布教推進講習会		田中隆之	谷内秀自	佐藤真孝

役割		区分	
坐り勤		前 半	
後 半			

地 方		おつとめ てをどり				笛		ちゃんぽん		拍子木		太鼓		すりがね		小鼓		琴		三味線		胡弓		控	
三	田	佐	大	前	上	大	前	田	中	中	吉	岡	山	岡	山	佐	上	岡	三	胡	中				
代	林	藤	教	会	原	教	会	中	村	隆	岡	崎	野	崎	野	藤	原	崎	島	村	義				
温	久	道	会	長	繁	奥	奥	之	剛	壽	喜	弘	実	順	順	真	順	豊	照	美	太				
生	嗣	孝	様	様	道	様	様	み	之	剛	喜	実	孝	子	子	孝	子	子	美	美	郎				
中	横	門	今	吉	浅	武	中	吉	上	高	山	谷	杉	虫	内	横	高	室	悦	子					
村	山	脇	川	岡	野	内	村	岡	原	木	田	内	原	明	海	山	木	室	悦	子					
剛	逸	元	昌	誠	明	正	初	八	繁	昭	敏	伸	善	立	安	小	孝	室	悦	子					
史	郎	教	彦	一	教	美	美	恵	次	祥	教	自	朗	生	子	榮	子	室	悦	子					
岡	上	上	岡	山	森	門	田	上	岡	田	谷	内	中	赤	谷	山	室	室	悦	子					
田	原	原	崎	野	本	脇	中	原	崎	林	内	海	島	木	内	山	悦	室	悦	子					
誠	浩	郎	真	弘	忠	加	つか	千	治	久	秀	史	誠	素	美	野	悦	室	悦	子					
			一	実	善	津	さ	枝	喜	嗣	自	郎	治	志	知	な	悦	室	悦	子					

大教会だより

◎こどもおぢがえり

詰所受入ひのきしん

立教188年(自く至)

① 7月26日～7月29日

② 7月29日～8月1日

③ 8月1日～8月4日

④ 7月26日～7月30日

⑤ 7月31日～8月4日

・東ブロック

芳井 奥田 柊 ①

吸江 西村 健 ②

金浦 樋上 謙 ③

・西ブロック

大江橋 村川 清治 ①

島中 内海 純子 ②

久松 中村 剛史 ③

・福山ブロック

福岩 三阪 泰人 ①

福節 藤井 治喜 ②

福芦 青山 和未 ②

福山 田中 真実 ③

・高屋ブロック

坪生 阿部 通子 ①

高丸 谷本 圭子 ②

芦品 青木 茂男 ③

・島根ブロック

照雲 雑賀 元生 ①

照雲 雑賀 元生 ②

出雲 鳥谷 達男 ③

・上府ブロック

甲井 山田 敏教 ④

上下 山野 なつ ⑤



一昨年の2月、とても嬉しい夢を見ました。

凄くリアルな夢だったので細部までしっかりと覚えています。

なんと、真柱様、奥様が我が家に来られたのです。しかも我が家の台所で一緒に夕食を頂きました。メニューはこんにゃくと大根の煮しめ、近所の「二軒屋」という激安スーパーで買った「しば漬け、キュウリ、穴子の三色細巻」、それからハムとチーズのサンドイッチという妙な組み合わせのディナーでした。それでもお二人ともとても美味しうと喜んで下され、妻と一緒に記念写真まで撮らせていただいたのです。翌日、電話があり「中山です」と…

：一瞬誰か分かりませんでしたでしたが、すぐ真柱様だと気づきました。何事かと耳を澄ませば「昨日のこんにゃく、美味しかったです」

なんじやそりやあと思った瞬間に目が覚めました。

実はですね、加齢とともにそれまで「夜間尿」で朝までに2回、多い時は3回ほどトイレに起きていたのですが、その日は珍しく一度も起きずに朝までぐっすりと眠れました。

それにしてもどうして真柱様奥様が夢に出てこられたのかなあと、考えていたら思い当たることがありました。

実は、7年ちよつと前に、真柱様が脳内出血で入院されたときからずっと、毎朝夕のお勤めの後、教祖に真柱様の身上のご快癒をお願いさせていただいているのです。もしかすると、そのお札に来てくださったのかなあと勝手に解釈して喜んでいたのですが、有難いですね。

もし、私なんかがうちの信者さん方の夢に現れたら、「会長さん夢にまで出てこんでください」と言われそうです…。

諭達第4号に「ようぼくは、進んで

教会に足を運び、日頃からひのきしんに励み、家庭や職場など身近なところから、にをいがけを心掛けよう。身上、事情で悩む人々には、親身に寄り添い、おつとめで治まりを願い、病む者にはおさづけを取り次ぎ、真にたすかる道があることを伝えよう。親神様は真実の心を受け取って、自由のご守護をお見せ下される」

とありますように、どんなかたちでもいいから誰かの「たすかり」をお願いさせていただくということがとても大切なことだと思います。

で、その夢を見た日から、今日まで、朝まで一回だけのピコレットタイムになり、時には一度も起きずに朝まで気持ちよく眠れるようになったのです。ほんとうに有難いですね。ここで間違えないようにしていただきたいのは「夜間尿」ですからね、「夜尿症」ではありませんからね。「かさおか」読者の皆様方、ビエンさんは、夢で真柱様に「おねしょ」を治していただいたと、決して宣伝しないようにしてくださいね。よろしくお願いいたします。

(VJK)